



「鎮魂」 林龍峯謹書



護

魂

御祭神数

当神社に御鎮祭申し上げております
御祭神は四万九千七百二十八柱です。

鎮魂

宮司 額田照彦

今年二月にロシアのウクライナへの侵攻が始まって、早くも半年以上が経った現在も、未だ停戦・終戦の先行きが見えないのが現状です。ロシアの一方的な侵攻侵略から、祖国・家族を守るために、国外在住のウクライナ人も帰国し、女性を含む一般市民も戦っている映像が報道されています。如何に戦争・紛争が悲惨で不幸な結果をもたらすか、改めて認識する次第です。

さて、本年八月十三日、万灯みたま祭初日、書家・林龍峯氏による世界平和を祈念する「鎮魂」(縦一・六m 横四m)が拝殿で揮毫奉納され、現在神門西側に掲示しています。林氏は、ロシアのウクライナ侵攻による悲惨な現状、終息の見えない新型コロナウイルス感染症、東北での豪雨災害など、非日常が続くなか、気遣いを持って人と接することの積み重ねが、平和につながってゆくとの願いをこの二文字に込めたとその思いを語りま

した。私たちも今一度、個人個人一人一人が、人を思いやる心をもつということを大切に、胸に刻んでゆくことが、より大事なことであるとの想いを新たにするところです。現在軽視されている我が国伝統の倫理や道徳の復活を望むばかりです。

さて、毎年九月二十一日の国連が定めた「国際平和デー」に、和プロジェクトTAISHI(たいし)主催による「九・二一世界平和の祈り」が全国の護國神社で、書家・高校書道部による「世界平和」を祈念した奉納揮毫(平成二十九年第一回)が、同日行われております。

当社では本年も九月二十一日、拝殿で正式参拝の後、林龍峯氏と県立松山北高校書道部による「九・二一世界平和の祈り」の奉納揮毫が行われ、林氏は「以和為貴」を揮毫し、奉納しました。「平成二十九年第一回に揮毫した「以和為貴」を、古代文字(金文)で力を込め意味を噛みしめ揮毫しました。ロシア、ウクライナ戦争の早期終結を願い、今後世界平和活動が続いていきたい。」と心情を語られました。また、松山北高校は、書道部八名、コーラス部九名、写真部四名が参加し、書道部がコーラス部の伴奏に合わせ「世

「世界平和」を奉納揮毫しました。書道部の檜垣美佑部長は「ウクライナをはじめ、世界各地の戦争や紛争がなくなり、一刻も早く日常が戻り、世界中に平和が訪れてほしい」という願いを込めて書きました」との想いを語ってくれました。当社では、高校生の参加は今年で四回目となりましたが、全国では年々参加校も増えているとのこと。今年も靖國神社、全国の護國神社四十八社、広島平和公園、長崎平和公園、全国から高校四十四校の参加と聞いております。次代を担う若い世代の方々に、平和の礎となられた英霊のご遺徳を後世次代に受け継ぎ、継承していくことを祈念する次第です。

祖國を守るために尊い命を捧げ散華された英霊の遺徳を偲び、感謝をもって参拝して戴くことを切に願うばかりです。

一刻も早い世界の戦争・紛争の終結と、一日も早い新型コロナウイルスの終息を心から祈念するとともに、御遺族・崇敬者・ご関係の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



崇敬会会長就任の御挨拶

愛媛縣護國神社崇敬会

会長 竹内 誠 治



令和四年五月二十三日、愛媛縣護國神社崇敬者総代会におきまして、崇敬会会長に選任されました。

もとより微力ではございますが、英霊の顕彰を第一に、愛媛縣護國神社の各種慰靈行事に際し、専心努力いたす所存でございます。なにとぞ皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

終戦以来七十七年の歳月が流れ、我が国は、国民のたゆみない努力により世界に類を見ない発展を遂げました。しかし、祖國の平和と家族の行く末を案じながら、かけがえのない命を國家にささげた英霊と残された家族の悲しみを思うと、悲痛の思いが胸に迫ってまいります。

私の父親も、昭和十九年五月、旧満州にて亡くなりました。当時三歳だった私には、父親の記憶はありません。

戦後の生活は、戦争遺児、母子家庭という環境の中、「なにくそ負けるものか」という

気持ちでエネルギーにし、芯が強く弱音を吐かなかつた母親のおかげもあり、生活面での苦勞はそれほど感じませんでした。

私は昭和五十六年、大西町遺族会副会長、越智郡遺族会青年部長をさせていただき、平成十七年には、今治市連合遺族会副会長、そして平成二十四年からは同連合遺族会会長を、そして令和三年から愛媛県遺族会副会長も務めさせていただいております。愛媛県護國神社の各種慰靈行事についても、長年参加してまいりましたが、この三年の間については、新型コロナウイルス感染症の影響のなか、令和二年春季慰靈大祭以降について、大幅な縮小のもと慰靈大祭を実施せざるを得ないこととなっております。やむを得ないこととはいえ、護國の英霊に対し誠に申し訳のないこととなっております。いまだ収束の兆しが見えない感染症が、一日も早くおさまることを願うばかりです。

また、ヨーロッパに目を向ければ、ロシアのウクライナ侵攻では、指導者による信じがたい暴挙により簡単に戦争がはじまり、何の罪もない命が失われ続けています。そして我々のような遺族も多く出ております。また、いったん始まった戦争は終わらせるのは大変難しいことを示しています。

またこの侵攻により、我々の日々の暮らしにも、エネルギー高騰、消費物価上昇など、多くの影響が出ております。

アジア周辺においても、中国と台湾との関係の緊迫、それに関連しての沖縄周辺への影

響、さらには北朝鮮の動向など、決して対岸の火事ではありません。平和を構築するには、戦争を忘れないことだと思います。

そして、戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継いでゆくことが重要です。

ご遺族の高齢化が進み、戦争を知らない世代が八割を超え、その記憶は風化の一途をたどっております。護國神社の各種行事、英霊顕彰を通じて、戦争の悲惨さ、平和の有難さを若い世代に語り継いでゆかねばならないと思っております。

時節柄、皆様にはくれぐれも健康にご留意のうえ、ご健勝にお過ごしいただきますようお願い致します。

御挨拶

愛媛県遺族会

会長 関谷勝嗣



この度、愛媛県護國神社社報『護國』の発刊一〇〇号を迎えられること、心からお喜び

申し上げます。発刊一〇〇号といひましても、簡単に迎えることができるものではありません。これまで様々な関係者の方々の苦勞と努力によって、今回の発刊一〇〇号を迎えることができたのだと思います。また、常日頃より護國神社様には、英霊の慰霊顕彰はじめ諸々のことに関して特段のお世話になっておりますこと、遺族会を代表して改めてお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症予防のため様々な集會や会合が制限され、皆様にお目にかかる機会が減ってからは、はや三年以上の歳月が過ぎました。一刻も早くコロナ感染が収束し、従来の生活に戻れることを願うばかりですが、残念ながらワクチン接種後の時間経過による感染予防効果の低下や行動制限の緩和、エアコンの使用による屋内の換気不十分、更にはオミクロン株の亜型のB A 5の拡大もあり、コロナ感染第七波に入っております。更なるコロナ感染拡大につながらないよう皆様におかれましても、引き続き感染予防対策に努めていただきますようお願い申し上げます。

さて、二〇二二年二月に発生したロシアのウクライナへの軍事侵略は、世界中で驚きとロシアに対する非難をもつて受け止められました。遺族会活動の基本の基本である戦争の愚かさや平和の尊さを後世に伝えていくことに全く逆行する愚行であり、絶対に許されない行為です。しかし、残念ながら、国連安全保障理事会の決議は、常任理事国の一国の反対があれば成立しない制度になっており、現

在はロシアの反対により十分に機能していない状況です。国連本部で開かれた核拡散防止条約再検討会議でも全会一致で作る最終文書をロシアの反対で採択することができませんでした。更にはウクライナ南東部にあるロシア軍が掌握しているヨーロッパ最大級のザポリージャ原発では、砲撃の情報も伝えられるなど重大な事故につながりかねないリスクに直面しております。

今回のウクライナへの軍事侵略は、ウクライナや周辺地域だけの問題ではありません。今や世界は地政学的、経済的にあらゆるつながりを持つております。世界の平和と発展にも深刻な危機をもたらしています。戦争は決して遠い国の出来事ではありません。現実を見るにつけ暗澹たる気持ちになります。このような状況下にこそ、改めて唯一の原爆被爆国の我々のなしていくことを考える時なのかもしれません。いかなる状況であっても、いかなる理由があっても戦争は避けねばなりません。私は愛媛県遺族会会長の務めとしても、声を大にしてそれを皆様に伝えたいと思います。

そして、一刻も早くロシアのウクライナ軍事侵略が終結することを祈るばかりです。最後になりましたが、護國神社の御安泰と御発展を心よりお祈り申し上げ、御挨拶いたします。



祈念史料室 みゆきだより (五)

父の遺骨収集と遺族会活動のことなど

松山市遺族会

東雲地区部長 須賀 一成

護國神社の社報『護國』第一〇〇号の原稿依頼を受け、良い機会を得たと思ひ、私の思ひを書いてみたいと思ひ筆を執りました。その前に父の遺骨収集帰還の話を書き少し書いておきましょう。

私は慰霊巡拝には「遺骨収集帰還事業」の参加を含め、三回父の亡くなったパプアニューギニアに参加させていただきました。コシャコシャという所に墓標が建っていました、それはこの辺りで亡くなった方達が祀られていると言われ、参加した人たちが簡易な慰霊祭を行いました。二度目は三年後に参加しましたが、コシャコシャ方面は雨で川の水が増水し、橋がないので近くまで行けない、ここで簡易な慰霊祭を行うと言われました。その二年後に厚生労働省計画の「遺骨収集帰還事業」に参加させてもらえました。これは全額厚生労働省負担でしたので、軽い気持ちで参加したのですが、計十名、二十一日間(三週間)かけて、三か所で遺骨収集焼骨作業まで行って持ち帰り、「千鳥ヶ淵戦没者墓苑」で納骨式を行いました。

気候も良く、コシャコシャの現地では病院

の跡地を掘削し、三十八柱の遺骨を発掘しましたが、米軍のように認識票でも見つければ良いのですが、そのような規則もない、あってもそんなものは役に立つこととは考えていなかったのでしょうか。結局父の遺骨は分からないままでした。最後には同行した僧侶の資格のある方が読経して厳かに慰霊式を行いました。

これから私は父の生まれた松山の地で、父の慰霊をお守りしたいと思っています。

さて話は戻って護國神社の発行する『護國』の冊子が発行される度に目を通しておりましたが、額田宮司様の記事、各先輩方のご苦労、遺族会遺児の皆様方等々の苦しかった



思い出などが綴られており、本当によくここまで頑張ったものと、同じ遺児として感慨に堪えません。

ここで話は変わりますが、遺族会の活動も、役員の方はまだお元気な方もおいですが、八十一歳が全国会員の平均年齢と聞きます。高齢化は避けて通れない問題です。役員が辞めると後継者が見当たらず、活動が停止になってしまう場合が出ております。各地区とも後継者を決める必要がありますが、めぼしい人を見当たらないまま、地区部長を続けている方が多いのが現状ではないでしょうか。

そのような状況の中で遺族会を続けるにはどうすればいいのか議論を重ねたなかで、「孫・ひ孫の会」を結成するという案が出ましたが、あまり議論されぬまま我々一般会員の知らぬ間に遺族会本部で結成され、活動が報じられています。中央で活躍しても、現場の各遺族会に足場を置いた活動でなければ発展が望めないと思います。中央で新しい組織として活動するのも一案とは思いますが、遺族会の再構築が目的ではなかったのでしょうか。速やかに現場に帰り、弱った遺族会を再構築してほしいのです。その際、資金が必要なら、本人や県単位でなく出身の地区遺族会に対し、補助をするなど発展し成長させる方法を考える必要があるのではないのでしょうか。

次に遺族会員にこだわっていたら、間もなく途絶えてしまいます。

一般の人を巻き込む方法、例えば名前を変え、平和活動として遺族会が一般の人たちの中に入っていく方法はどうか。

『戦友団体等による慰霊祭』

令和四年

五月十日 愛媛シベリアを語り継ぐ会

慰霊祭

六月一日 西予市野村町野村地区慰霊祭

六月八日 愛媛県殉職消防職団員慰霊祭

八月十日 歩兵第二十二聯隊慰霊祭

〔奉納者並びに寄贈図書〕

一、「倫風」

松山市緑町

一般社団法人実践倫理宏正会

松山支部 森川いづみ様

一、「籠神社の総合的研究」

(御鎮座千三百年記念事業刊行書籍)

〔総監修〕海部毅成 〔編〕三橋健

京都府宮津市宇大垣

籠神社

宮司 海部 毅成様

令和四年(四月)春季慰霊大祭奉仕者

(敬称略)

献茶奉仕者(茶道裏千家淡交会松山支部)

幹事長 松山市千舟町

副幹事長 松山市持田町

献花奉仕者(愛媛県華道会)

桂月流 松山市朝日ヶ丘

奉納生花奉仕者

水明流 松山市美沢

永井 宗知

浅井 宗直

岩本 清美

泉 美枝

泉 美枝

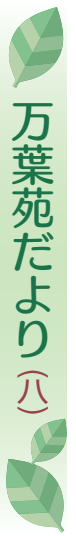
そしてまた、平和祈念行事や遺族大会に小中学生の参加を願い、意見を発表してもらう方法、遺族会の「平和の語り部」の人員を増やし、小中学生の平和学習で発表し、広島、長崎の原爆だけでなく、自分たちの住んでいる地域でも(愛南町、宇和島市、八幡浜市、松山市、今治市、西条市等々)たくさんの方々の被災地があり、それぞれの地に悲惨な爆撃の被害が埋もれています。それを発掘し、遺族会員だけでなく一般の方にも「平和の語り部」として加入してもらい、各学校の平和学習で発表することはどうでしょうか。

「平和の語り部」を早急に育成してほしい、語り部と小中学生のつながりを作らねばならない。徳島には五十名の語り部がいます。これは何を目的にし、どんな成果が出ているのか知りたいものです。

最後に護國神社にある十七基の慰霊碑のことです。「慰霊碑清掃の日」を定め、各小中学校に呼びかけ、新聞やテレビのニュースにも取り上げてもらい、多くの人に平和運動のを知ってもらうことが一つの方法であると考えますが、如何でしょうか。

すべての提案に通じるのであるが、一人でも二人でも良い、小中高校生に関心を持ってもらうよう、長い時間をかけてでも平和運動や遺族会活動の協力者を増やすことを目指すべきではないでしょうか。

戦争をなくすこと、戦争の悲惨さを、戦争を知らない子どもたちに伝えることが、私たちに残された責任ではないのでしょうか。皆様のご意見をお聞きしたいと思います。



私の万葉集(苑)へのこだわり

愛媛万葉苑保存会

常任理事 藤原 茂

愛媛万葉苑のお世話をするようになって、凡そ四〇年余りになります。その間色々な方から、万葉苑に関わり始めた動機とか、万葉集に興味を持った理由を聞かれることがあり、答えるに困ることもありました。

愛媛万葉苑を計画された竹葉先生の言葉を借りますと、「万葉集には山部赤人の『伊予の温泉に至りて作れる歌一首並びに短歌』が載っています。…中略…」この地は記紀万葉の人達の歌情を豊に養いまた多くの歌を詠はしたことと思えます。…中略…ここ一円を『万葉苑』として『郷土植物園』と共に護國の英霊をお慰み申し上げ、また一方、西洋の個人主義・機械物質文明から生じた、公害と闘争の荒んだ現代、神と人と自然との融和一体、神を敬い大地に感謝し、ささやかな路傍の小草にも心を寄せていとほしむ、この万葉の心を今の世のものにしたい。日本の心の故郷をここに造りたい」となります。まさにその通りだと思えます。

しかし、私自身の体験は少し違います。私が物心ついた頃は、既に満州事変が始まっており、支那事変の最中で、言わば戦時下の時代です。勇ましい戦果の記事や戦没者の武勲

に心を踊らされる愛国少年でした。やがて大東亜戦争が始まり、特攻隊員の活躍や隊員の遺詠などに感動しておりましたが、やがて現役入隊が近づくと、彼らの死生観や遺詠など教養の深さに感心しておりました。

その頃百人一首や万葉集にあった「海行かば水漬く屍 山行かば草生す屍 大君の辺にこそ死なぬ 顧みはせじ」や、「今日よりは顧みなくて大君の醜の御楯と 出でたつ我は」に心ひかれて、当時評判の高かった、斎藤茂吉の『万葉秀歌上・下(岩波新書版)』を買って読み始めました。それで得た感動は今も忘れられません。殊に心を惹かれたのは防人の歌でした。

昭和十九年十一月二十六日現役兵として入隊の時、何はさておきこの二冊を携行しておりました。任地は北支派遣軍で河南省の旅団騎兵でした。入隊後幹部候補生教育で候補者が集合して驚いたのは、かなりの候補者が何れも「こっそり」と『万葉秀歌』を持っていることでした。

普通軍隊では持ち物は厳しく制限されますが、老河口作戦中も窮屈な馬囊の中に、詔勅集や戦陣訓・典範例と共に新書版二冊が密かに収まっておりました。作戦終了後保定の予備士官学校に入隊しましたら、更に多くの候補生が『万葉秀歌』を携帯しておりました。

戦後日本に帰化されたドナルド・キンさんも、数年前テレビで、「戦時中戦死した日本兵の遺品を整理していた時、その背囊の中から『万葉秀歌』を度々発見し驚かされた。

一般の兵隊でさえこれだけの教養のある日本に興味を持った」と述懐されておりました。

私たちは子供の頃から、百人一首に馴染み武人の嗜みとしての和歌への関心もあり、ある意味での格好づけの所もあつたのでしようか。また万葉集は雑歌・相聞歌・挽歌で構成されています。言うまでもなく相聞歌は恋愛の歌であり、挽歌は棺を挽く歌・弔いの歌です。また防人の歌も多く載っており、出征する子を想う両親の歌や、夫の身を案ずる妻の歌。父母や妻子を想う兵士の歌、遠い異郷の地からの望郷の歌など、若い兵士の興味をそそる作品には事欠きません。殊に最近のウクライナ国民の惨状を思いながらひしひしと感じるものがあります。つくづく当時を偲びながら、明日をも知れぬ戦場で、密かに万葉集に惹かれていたことを思い出しております。かつて友人中川悦良君から「陸士入学早々の授業で、とっさに教官から万葉集巻頭の雄略天皇の御製『籠もよ み籠持ちふくしもよ みぶくし持ち…』の感想を聞かれ驚いた」と聞いたことがあります。陸士での教養教育の一端に万葉集を重視していたことが判ります。その成果は、彼の先輩で県人の故徳本信男大佐(昭和二十四年中国広東郊外で戦犯容疑として刑死・護國神社祭神)の遺詠集『荔枝の蔭』が実証しています。

くろがねの足の鎖のいつしかに

光り初めきて死の近くなる

死の迎ひ今日か明日ぞと思ふまま

形見の品に歌のこしけれ

指してゆく宿の灯見え初めて

急ぐには惜し春の夜の月

陸軍大佐 徳本光信遺詠

また、私の心に残る大東亜戦争緒戦の九軍神の一人、故岩佐直治少佐と、硫黄島に玉碎された故栗林中将の遺詠も同様です。

身は例へ異郷の海に果つるとも

護らでやまじ大和皇国を

海軍中佐 岩佐直治

国の為重き勤めを果し得て

矢弾つき果て散るぞ口惜し

仇討たて野辺には朽ちじ我はまた

七たび生まれて矛を執らむぞ

硫黄島総指揮官陸軍中將 栗林忠道

身近な例で伊予市中山町出身の飛田俊夫さん(護國神社祭神)の遺詠もあります。

捧げたる父とも知らで待つ子らの

仮名の便りぞ愛しく思ふ

さて万葉集に戻りますと、防人の歌(巻二〇(四三二八)があります。内容は「男子の名を振るわんことを願ひ、梓弓の弓末を振り立て投ぐ矢を遠くまで射、劍の太刀を腰に佩び、山々を超えて君の仰せのままに働き、後の世の人々にまで語り継がれるような勇士になれよ」と説いております。

また、手元に戦後無残にも戦犯の汚名を受け刑死した六九二名の遺書・遺詠を載せた「世紀の遺書」という書物があります。この中の宮崎高農出身の元陸軍大尉堀本武男氏の遺書に、「歌の道は古の大和の心にして拘留所までは内地より持参の『万葉集』『万葉秀

歌』の本だけは身辺より離すこ
とはなかりき。本を捨てさせら
れ筆を奪われたる獄中生活に於
ても尚歌の道のみは捨てず、同
好の士を求めて最後まで持ち続
けたり。(中略) 歌の道は物事を、世の中を正しく見て素直に
判断し、従順なる心と最も良き
道にして事象を客観的にありの
ままを素直に見た心の叫びこそ
歌である」と。そして「最後に
これまで詠んだ歌は三千首余に
もなろう。できれば新延先生か
斎藤茂吉先生に見て戴いて少し
でも良いから纏めて残してほし
い」と弟に頼んでいます。
更に、ここに昭和三十八年十
二月一日の天声人語(朝日新聞
コラム)があります。この日は
学徒出陣壮行式が行われてから
二十年目に当たったの記事で
す。冒頭に東條首相の訓示が
あって「ある学生は、涙を流し
つつ国と民族のために死んでも
いいと思った。麗しの大和を護
るためには『醜の御楯』になろ
う。彼は万葉集をポケットに入
れて『お母さん靖國神社に逢い
に来てください』母を悲しませ
まいとわざと笑って言った」と
書いています。出征する子に贈

る親の想いや、親思う子の思い
は、万葉の時代も私達が出征す
る時も変わりませんでした。運
よく命永らえて今日を迎え、思
うはせめて鎮魂の杜万葉苑への
ささやかな奉仕をと願って今日
を迎えました。
忘れじと

思えどいつかなおざりぬ
皇国に尽くせし御霊
(九十七翁茂)



正式参拜

☆令和四年四月二日
愛媛シベリアを語る会

会長 松木敏夫 様
計八名

☆令和四年五月五日
愛媛万葉苑保存会

計六名

☆令和四年五月三十一日
愛媛県遺族会理事会

会長 関谷勝嗣 様
計十五名

計十五名

☆令和四年五月十六日
日本遺族会中四国ブロック会議
愛媛県遺族会

会長 関谷勝嗣 様
日本遺族会
会長 水落敏栄 様



☆令和四年五月二十七日
晴朗会

代表 安永教一 様
計十八名

☆令和四年六月二十四日
愛媛県遺族会評議員会

会長 関谷勝嗣 様
計二十五名

計二十五名

☆令和四年六月二十八日
松山市遺族会役員会

会長 西村利明 様
計三十七名

☆令和四年七月八日
英霊に心える会愛媛県本部総会

会長 佐伯 要 様
計三十五名

☆令和四年八月八日
愛媛県瓦工事業組合

理事長 菊池陽一郎 様
計二十名

☆令和四年八月十五日
伊豫豆比古命神社

宮司 長曾我部昭一郎 様
計十名

☆令和四年八月十五日
愛媛県議会議員

三宅浩正 様
計一名

☆令和四年九月二十一日
和プロジェクトT A I S H I

奉納揮毫
書道家 林 龍峯 様

松山北高等学校書道部
部長 檜垣美佑 様

計三十一名

愛媛縣護國神社英靈顕彰会 入会と継続のご案内

平成26年11月の設立以来、ご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。
今後も英靈のご遺徳を顕彰し後世に伝えてゆくために、愛媛縣護國
神社英靈顕彰会へのご入会と継続のご協力をお願い申し上げます。
お問い合わせは、下記迄お願い致します。

愛媛縣護國神社 英靈顕彰会事務局 TEL (089) 925-2353

英靈顕彰会会員の特典

各特典	正会員	賛助会員	特別会員	備 考
会費(年額)	3,000円以上	10,000円以上	100,000円以上	
会員対象	個人	個人・団体	個人・団体	
神 札	御 守	紙 札	木 札(小)	年1回発送
社 報	年2回発送	年2回発送	年2回発送	
春秋大祭案内	×	×	○	一般来賓案内
顕彰石彫	×	×	○	

御祈禱(お祓い)の御案内

当社では各種祈願を随時お受けしております。
時間等は社務所へお問い合わせ下さい。

初宮詣
七五三詣
厄除け
交通安全
家内安全
合格祈願
社運隆昌
新年特別祈禱
その他